有明海の特産種

有明海に生息する生物の特産種を表-1に、準特産種を表-2にそれぞれ示す。(特産種及び準特産種の定義は出典の注釈1)のとおり。)

なお、各表の「絶滅のおそれ」欄には、レッドデータブック(環境省 2012)を踏まえ、注釈 2)のとおり「f: 環境省 (2012)」として出典に情報を追加して取りまとめた。

	種名	絶滅のおそれ ²⁾	 国外での分布記録	分布情報
魚類		#G4000043 C40	1171 C 377 IF HOPE	22 P 113 TK
	エツ	希少³,危急 絶滅危惧IB類 ^d	朝鮮半島,中国	産卵は筑後川の感潮域、低温期に は外海水の影響がやや強い水域ま で分布する.
	アリアケヒメシラウオ	絶滅危惧 ^{a,b}	なし	有明海固有種. 筑後川と緑川の感潮 域上流部にのみ分布
	アリアケシラウオ	絶滅危惧 ^{a,b} 絶滅危惧IA類 ^d	朝鮮半島,中国	
	ハゼクヂ	減少ʰ 絶滅危惧Ⅱ類ʰ	朝鮮半島,中国	国内では有明海と八代海に分布・河口域とその沖の浅海に分布・稚魚および未成魚は河川感潮域に分布・産卵は河口域の泥場
	ムツゴロウ	危急 ^a ,減少 ^b 絶滅危惧IB類 ^d	朝鮮半島,中国,台湾	国内では有明海と八代海に分布・主 に小潮平均高潮位より低い平坦な派 干潟に生息
	ワラスボ	減少 ^b 絶滅危惧Ⅱ類 ^d	朝鮮半島,中国,インド	国内では有明海(八代海の記録あ 別). 有明海奥部海域に多い.
	ヤマノカミ	危急 ^{a,b} 絶滅危惧IB類 ^d	朝鮮半島,中国	日本では有明海に注ぐ河川にみに 生息. 産卵は海で産卵する.
浮遊的	生カラヌス 目カイアシ 類			
	Sinocalanus sinensis ²⁾		中国	
	Tortanus(Eutortanus) derjugini ³⁾		朝鮮半島,中国,ロシア沿海州	
力二類	Į.			
	アリアケヤワラガニ	希少° 情報不足°	中国	
	ハラグクレチゴガニ ⁴⁾	希少°,危険 準絶滅危惧 ^d	朝鮮半島,中国	
	ヒメモクズガニ		朝鮮半島,中国	
腹足类	質			
	アズキカワザンショウ	危険 絶滅危惧 I 類 ^d	なし	
	ウミマイマイ ⁵⁾	絶滅寸前 絶滅危惧Ⅱ類 ^d	なし	
	ヤベガワモチ	絶滅危惧 I 類 d	なし	
二枚月				
	シカメガキ	準絶滅危惧 ^d	なし	
多毛类	ĬĮ			
	アリアケカンムリ		なし	
	アリアケゴカイ		中国	
	アリアケカワゴカイ		朝鮮半島	
	ヤツデシロガネゴカイ		なし	
	テナガカイメンシリス		地中海	
	アリアケイトゴカイ 質		インド	

- 1) 国内での分布記録が有明海に限られる種. ただし、一部の種は、八代海北部にも分布する.
- 2)a:環境庁(1991a),b:水産庁(1998),c:環境庁(1991b),無印:和田ほか(1996),d:環境省(2012).
- 3) Sinocalanus sinensisについては, Hiromi & Ueda(1987)を, Tortanus(Eutortanus) derjugini については, Ohtsuka et al.(1992,1995)参照. その他の種については本書の第2部参照
- 4)ハラグクレチゴガニは、鹿児島湾,東京湾などでも少数個体の採集記録があるが,それら
- は有明海産アサリの放流事業にともなう偶発的な移入かもしれない。
- 5) ウミマイマイは、広島湾、山口県でも採集記録があるが、それらは人為的移入らしい。
- 注 1) 「絶滅のおそれ」の項にある「d:環境省(2012)」は原著に追加したもの. 脚注 2) 参照.
- 注2) 「分布情報」は原著本文より要約し追加記載したもの.
- 出典:佐藤正典編, 2000, 有明海の生きものたち, 干潟・河口域の生物多様性, ㈱海游社, 東京 に一部追加記載(脚注参照)

種		絶滅のおそれ ²⁾	種		絶滅のおそれ
<u></u> 鳥類		######################################	 二枚貝		### 10 C 40
	ズグロカモメ	絶滅危惧Ⅱ類°	-1/3-	ー コケガラス	危険
		絶滅危惧Ⅱ類 ^f		. ,,,,,,,	準絶滅危惧 ^f
	ツクシガモ			ヒメエガイ	現状不明
	ツグンカモ	絶滅危惧IB類®		C>>4-1	絶滅危惧Ⅰ類
		絶滅危惧Ⅱ類 ^f		クマサルボウ	た 機 危 展 1 規 危険
魚類				2 4 9 12 14 2	
	ヒラ			1. 240 2	絶滅危惧Ⅱ類 絶滅寸前
	コイチ			ハイガイ	
	メナダ			n n 1°>> → 1° 2	絶滅危惧Ⅱ類
	マナガツオ			ササゲミミエガイ	絶滅寸前
	スズキ				絶滅危惧Ⅰ類
	コウライアカシタビラメ	減少 ^b		スミノエガキ	絶滅寸前
脊索動					絶滅危惧Ⅱ類
	ナメクジウオ	危急 ^b		ヤミノニシキ	危険
甲殼類					絶滅危惧Ⅰ類
	ヂクゴエビ			チリメンユキガイ	絶滅寸前
	ヒメケフサイソガニ	絶滅寸前			絶滅危惧Ⅰ類
	シオマネキ	希少°、危険		アゲマキ	危険
		絶滅危惧Ⅱ類 ^f			絶滅危惧Ⅰ類
	ムッハアリアケガニ	絶滅寸前		ヂゴマテ	現状不明
	アリアケガニ	危険			絶滅危惧Ⅱ類
腹足類		7-171		ウミタケ	危険
	ヒロクチカノコ	絶滅寸前			絶滅危惧Ⅱ類
		準絶滅危惧 ^f	多毛類		#=#X/GB(= 30
	クロヘナタリ	絶滅寸前		スナヒトデシリス	
		絶滅危惧Ⅰ類f		カニゴカイ	
	シマヘナタリ	絶滅寸前		アマクサシロガ ネゴカイ	
	2 , 3 2.3	絶滅危惧 [類		アナジャコウロコムシ	
	オオクリイロカワザンショウ			アカムシ	
	44791407977739			エンシュウタケフシゴカイ	
	1. ±1% da H-18% >da	絶滅危惧 [類]		カンテンフサゴカイ	
	ヒラドカワザンショウ	危急 ^d	星口動	物	
	ゴマフダマ	危険		クロサメハダホシムシ	
		絶滅危惧Ⅰ類 ^f	腕足類		
	サキグロタマツメタ	絶滅寸前		ミドリシャミセンガイ	危険
		絶滅危惧Ⅰ類 ^f	鉢クラク	 類	
	マルテンスマツムシ	絶滅寸前		ヒゼンクラゲ 近似種	
		絶滅危惧 I 類f	イソギン	/チャク類	
	ウネハナムシロ	絶滅寸前		「ワケ」とよばれる未記載種	Ī
		絶滅危惧Ⅰ類f	塩性植		
	ヒロオビヨフバイ	絶滅寸前		シチメンソウ	絶滅危惧Ⅱ類
	Y = #2 : 1	絶滅危惧 [類			絶滅危惧Ⅱ類
	ホソウネモミジボラ	現状不明			
	センベイアワモチ	絶滅寸前			
	ロイ・コイン セン	ψ □ 1828 . ↑ 13.11			

- 1) 国内での分布(記録地)が有明海以外では一部の海域に限られるもの、ただし、魚類については、有明海が分布域全体の中で極端な飛び地になっているものも含めた。
- 2) a:環境庁(1998a), b:水産庁(1998), c:環境庁(1991b), d:福田ほか(1999), e:環境庁(2000), 無印:和田ほか(1996), f:環境省(2012)
- 3) シヂメンソウは有明海以外では既に絶滅

注)「絶滅のおそれ」の項にある「f:環境省(2012)」は原著に追加したもの. 脚注2)参照 出典:佐藤正典編,2000,有明海の生きものたち,干潟・河口域の生物多様性,㈱海游社,東京 に一部追加記載(脚注参照) 資料3に記載の主要魚介類の選定結果に有明海の特産種及び準特産種の情報を加えた一覧を表-3に示す。特産種としてはムツゴロウ1種が、準特産種としてはスズキ、コウライアカシタビラメ、アゲマキガイの3種が主要魚介類として選定されている。

表-3 主要魚介類の選定結果並びに特産種及び準特産種一覧

①有明	月海における主な魚介類	②周年 定住種		④保護水面対象種	⑤場育藻干の減当産・場場潟特にす種卵生が・等定該る	®選定 結果	選定理由	特産種	準特産 種
魚類	イカナゴ	0			<u>'-</u>				
	コノシロ	Ŏ	0						
	サッパ	0							
	ヒラ								0
	エツ	0			0			0	
	アリアケシラウオ	0						0	
	アリアケヒメシラウオ	0						0	
	クルメサヨリ	Ö							
	ボラ		0		0				
	メナダ		0						0
	マナガツオ								0
	コイチ	0	0						0
	シログチ	0	0						
	スズキ	0	0		0	0	生育場が砂浜性藻場に依存する。		0
	セトヌメリ	0							
	ハゼクチ	0			0			0	
	タビラクチ	0			0				
	ムツゴロウ	0		0	0	0	産卵場・生育場が干潟に依存する。	0	
	トビハゼ	0			0				
	ワラスボ	0			0			0	
	トラフグ								
	シマフグ								
	ヤマノカミ	0						0	
	ヒラメ	0	0			0	生育場が干潟に依存する。		
	イヌノシタ	0	0		0	0	生育場が干潟に依存する。		
	コウライアカシタビラメ	0	0		0	0	生育場が干潟に依存する。		0
	アカシタビラメ	0	0		0	0	生育場が干潟に依存する。		
	マコガレイ	0	0		0	0	生育場が干潟に依存する。		
	ホシガレイ	0	0		0	0	生育場が干潟に依存する。		
	メイタガレイ	0	0						
	ウナギ				0				
	マアナゴ								
	マイワシ								
	カタクチイワシ								
	ブリ								
	マアジ								
	サワラ	0							
	カサゴ	0			0				
	メバル	0			0				
	シロギス	0			0				
	イサキ				0				
	マダイ	0	0		0	0	生育場が砂浜性藻場に依存する。		
	クロダイ	0	0		0	0	生育場が岩礁性・砂浜性藻場に依存する		
	アカエイ								
タコ類	イイダコ	0	0						
	クルマエビ	Ö	Ö		0	0	生育場が干潟に依存する。		
	イセエビ	0	0						
エビ・	シバエビ	0							
カニ類	シャコ	0							
	アナジャコ	0			0				
	ガザミ	0	0		0	0	生育場が干潟に依存する。		
貝類	アサリ	0	0	0	0	0	産卵場・生育場が干潟に依存する。		
	サルボウ	0	0		0	0	産卵場・生育場が干潟に依存する。		
	ハマグリ	0	0		0	0	産卵場・生育場が干潟に依存する。		
	タイラギ	0	0	0	0	0	生育場が干潟及びその周辺部に依存す		
	マテガイ	0	0		0	0	産卵場・生育場が干潟に依存する。		
	アゲマキガイ	Ö	Ö	0	Ö	0	産卵場・生育場が干潟に依存する。		0
	ウミタケ	0	Ŏ						0

- ①主な魚介類は下記1に示す文献から、有明海における水産有用種を抽出した。
- ②周年定住種は下記2に示す文献を参考に判断した。 ③漁獲量上位種:①で抽出した主な魚介類のうち、下記3に示す市町村別データを用いて集計した近年10ヶ年

(H18 ~ H25)の合計漁獲量が50位以内の種を抽出した。なお、③において「ボラ類」、「ニベ・グチ類」のように複数種の漁獲量が合計されている魚種については、以下のとおり、①において該当する全種を

- 同じ順位として扱った。
- ・「ボラ類」: ボラ、メナダ ・「ニベ・グチ類」: コイチ、シログチ
- ・「カレイ類」:イヌノシタ、コウライアカシタビラメ、アカシタビラメ、マコガレイ、ホシガレイ、メイタガレイ
- ・「クロダイ・ヘダイ」:クロダイ
- 「タコ類」:イイダコ
- ・「その他の貝類」:タイラギ、マテガイ、アゲマキガイ、ウミタケ ④保護水面対象種:水産資源保護法等に基づく保護水面として指定された水域がある場合、その対象魚種。
 - アサリ(水産資源保護法:熊本県岱明町高道地先)
- ムツゴロウ(佐賀県有明海海区漁業調整委員会他:佐賀県貝江川河口、佐賀県芦刈海岸)
- 以下の2種は保護水面対象種ではないが、規制範囲と期間が定められ採捕規制が行われているので、保護水面対象種と同等に扱った。 タイラギ (佐賀県有明海海区漁業調整委員会指示:佐賀県沿岸域、平成28年4月1日~平成31年3月31日)
 - アゲマキガイ (佐賀県有明海海区漁業調整委員会指示:佐賀県海区全域,平成28年3月1日~平成29年8月31日)
- ⑤産卵場・生育場が藻場・干潟等の特定域に該当する種は下記4に示す文献を参考に判断した
 - 産卵場あるいは生育場のいずれかにおいて、砂浜性藻場、岩礁性藻場、干潟のいずれかを利用するものに○を付した。
 - ー 岩礁性藻場、岩礁域のいずれも利用するものは特定の場に依存するとはしていない。
- ⑥選定結果:②~⑤の項目のうち3つ以上に該当する魚介類。
- ⑦特産種と準特産種の区分出典:佐藤正典編,2000,有明海の生きものたち,干潟・河口域の多様性,pp12-13,海游社,東京 <参考文献>
- 1.主な魚介類
- 「有明海の魚類相について」内田恵太郎・塚原博・1955(日本生物地理学会会報,16-19:292-302.)
- 「有明海湾奥部の魚類相」鷲尾真佐人・有吉敏和・野口敏春. 1996(佐賀県有明水産振興センター研究報告, 17:7-10.)
- 「有明海の魚類」田北徽. 1980 (月刊海洋科学, 124:105-115.)
- 「有明海のエビ・カニ・貝類」池松弥. 1980(月刊海洋科学, 124:97-104.)
- 「日本全国沿岸海洋誌」日本海洋学会沿岸海洋研究部会(編). 1985 (有明海IV生物. pp.873-874. 東海大学出版会.)
- 2. 周年定住種
- 「有明海の生態系再生をめざして」日本海洋学会(編). 2005(恒星社厚生閣.)
- 「有明海の魚類」田北徹. 1980(月刊海洋科学, 124:105-115.)
- 「有明海のエビ・カニ・貝類」池松弥、1980(月刊海洋科学,124:97-104.)
- 「沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカタコ類編)」海洋生物環境研究所, 1991
- 「沿岸至近域における海洋生物の生態知見(貝類・甲殻類・ウニ類編)」海洋生物環境研究所, 1992
- 「新版魚類学(下) 改訂版」落合明・田中克. 1998(恒星社厚生閣.)
- 「水産生物の生活史と生態」日本水産資源保護協会, 1985
- 「水産生物の生活史と生態(続)」日本水産資源保護協会. 1986
- 「水產生物生態資料」日本水產資源保護協会. 1981
- 「水産生物生態資料 (続)」日本水産資源保護協会. 1983
- 「環境が水産動物および漁業に及ぼす影響を判断するための「判断基準」と「事例」」日本水産資源保護協会. 1994
- 3.漁獲量上位種
- 「海面漁業生産統計調査.市町村別データ」農林水産省
- 4.産卵場・生育場が藻場・干潟等の特定域に該当する種
- 「有明海の生態系再生をめざして」日本海洋学会(編). 2005(恒星社厚生閣.)
- 「有明海の生きものたち」佐藤正典. 2000 (海游舎, 東京.)
- 「日本全国沿岸海洋誌」日本海洋学会沿岸海洋研究部会(編). 1985 (有明海Ⅳ生物. pp.873-874. 東海大学出版会.)
- 「沿岸至近域における海洋生物の生態知見(魚類・イカタコ類編)」海洋生物環境研究所. 1991
- 「沿岸至近域における海洋生物の生態知見(貝類・甲殻類・ウニ類編)」海洋生物環境研究所. 1992
- 「新版魚類学(下)改訂版」落合明・田中克. 1998 (恒星社厚生閣.)
- 「永産生物の生活史と生態」日本水産資源保護協会。1985
- 「永産生物の生活史と生態(続)」日本永産資源保護協会. 1986
- 「水產生物生態資料」日本水產資源保護協会, 1981
- 「水産生物生態資料(続)」日本水産資源保護協会. 1983
- 「環境が水産動物および漁業に及ぼす影響を判断するための「判断基準」と「事例」」日本水産資源保護協会. 1994
- 「日本の海水魚」大方洋二・小林安雅・矢野維幾. 1997(山と渓谷社.)